

令和元年度

## 自己評価及び外部評価結果

### 【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	1471900785	事業の開始年月日	平成18年4月1日
		指定年月日	平成18年4月1日
法人名	社会福祉法人 湘南福祉協会		
事業所名	グループホーム なごみ		
所在地	(〒239 -0807 ) 神奈川県横須賀市根岸町4-10-10		
サービス種別 定員等	認知症対応型共同生活介護	定員 計	9名
		ユニット数	1 ユニット
自己評価作成日	令和元年10月31日	評価結果 市町村受理日	令和2年1月6日

※ 事業所の基本情報は、介護サービス情報の公表制度のホームページで閲覧してください

基本情報リンク先	
----------	--

### 【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

・感染症に留意し、手洗いの励行、居住環境の清潔・清掃に努めている。  
おかげさまで面会に来られるご家族からは「いつもきれいにしてるわね」とお褒めの言葉をいただいている。  
・季節の外出イベントのほか、おもに昼食の時間を利用して、ささやかであるが職員の手作りによる特別食を用いてレクリエーションを行っている。  
・往診医、看護師に相談して、提携病院のみならず近隣のクリニックを活用して健康管理に努めている。

### 【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	ナルク神奈川福祉サービス第三者評価事業部		
所在地	神奈川県横浜市西区南浅間町8-22-207		
訪問調査日	令和元年11月26日	評価機関 評価決定日	令和1年12月18日

### 【外部評価で確認した事業所の優れている点・工夫点(評価機関記入)】

**【事業所の優れている点】**  
◇理念に基づく利用者の意思の尊重  
・事業所の理念に沿い、職員は利用者一人ひとりの意思を尊重し、人生の先輩として支援している。少し前に行ったトイレに行きたいと言う方にも、その都度トイレに誘導し利用者を安心させている。また利用者が何をしたいか、何に興味があるかなど本人の意向を汲み取る努力をし「押し付けない」「急がせない」を常に意識している。  
◇勤続年数が長く経験豊富な職員  
・認知症高齢者のケアの経験が、平均12年以上の経験豊富な職員が揃っており、多くの職員が介護福祉士の資格を持っている。  
**【事業所が工夫している点】**  
◇職員による家庭的な手作り料理の提供  
・食事は毎食職員が、利用者の希望に応じて家庭的な料理を手作りしている。食材は、利用者から希望を聞いてから購入し、1食に4品以上の副食を直近の内容と重ならないように留意して提供している。  
◇利用者・家族間の連絡に事業所電話の活用  
・家族から利用者や、本人から家族への連絡には、事業所の電話利用を認め、日ごろの面会が難しい家族との関係を深められるよう支援している。

### 【地域密着型サービスの外部評価項目の構成】

評価項目の領域	自己評価項目	外部評価項目
I 理念に基づく運営	1 ~ 14	1 ~ 7
II 安心と信頼に向けた関係づくりと支援	15 ~ 22	8
III その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント	23 ~ 35	9 ~ 13
IV その人らしい暮らしを続けるための日々の支援	36 ~ 55	14 ~ 20
V アウトカム項目	56 ~ 68	

事業所名	グループホームなごみ
ユニット名	

V アウトカム項目			
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる。 (参考項目：23, 24, 25)	○	1, ほぼ全ての利用者の
			2, 利用者の2/3くらいの
			3, 利用者の1/3くらいの
			4, ほとんど掴んでいない
57	利用者と職員が一緒にゆったりと過ごす場面がある。 (参考項目：18, 38)	○	1, 毎日ある
			2, 数日に1回程度ある
			3, たまにある
			4, ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている。	○	1, ほぼ全ての利用者が
			2, 利用者の2/3くらいが
			3, 利用者の1/3くらいが
			4, ほとんどいない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている。 (参考項目：36, 37)	○	1, ほぼ全ての利用者が
			2, 利用者の2/3くらいが
			3, 利用者の1/3くらいが
			4, ほとんどいない
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている。 (参考項目：49)	○	1, ほぼ全ての利用者が
			2, 利用者の2/3くらいが
			3, 利用者の1/3くらいが
			4, ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている。 (参考項目：30, 31)	○	1, ほぼ全ての利用者が
			2, 利用者の2/3くらいが
			3, 利用者の1/3くらいが
			4, ほとんどいない
62	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている。 (参考項目：28)	○	1, ほぼ全ての利用者が
			2, 利用者の2/3くらいが
			3, 利用者の1/3くらいが
			4, ほとんどいない

63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができています。 (参考項目：9, 10, 19)	○	1, ほぼ全ての家族と
			令和元年11月26日
			3, 家族の1/3くらいと
			4, ほとんどできていない
64 定員	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている。 (参考項目：9, 10, 19)	○	1, ほぼ毎日のように
			2, 数日に1回程度ある
			3, たまに
			4, ほとんどない
65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりの拡がりや深まりがあり、事業所の理解者や応援者が増えている。 (参考項目：4)	○	1, 大いに増えている
			2, 少しずつ増えている
			3, あまり増えていない
			4, 全くいない
66	職員は、生き活きと働いている。 (参考項目：11, 12)	○	1, ほぼ全ての職員が
			2, 職員の2/3くらいが
			3, 職員の1/3くらいが
			4, ほとんどいない
67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う。	○	1, ほぼ全ての利用者が
			2, 利用者の2/3くらいが
			3, 利用者の1/3くらいが
			4, ほとんどいない
68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う。	○	1, ほぼ全ての家族等が
			2, 家族等の2/3くらいが
			3, 家族等の1/3くらいが
			4, ほとんどいない

自己評価	外部評価	項 目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
I 理念に基づく運営					
1	1	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義を踏まえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	玄関先に事業所、法人の理念を掲示して職員の意識統一を図っている。	・理念は新人研修で説明しており、事業所玄関に掲示して、職員や関係者に周知している。 ・拘束禁止委員会や認知症研修では、理念をもとに、利用者に対する接し方や行動を学習している。	
2	2	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	防災訓練を中心になるべく地域の行事には顔を出すようにしている。	・町内会に加入し、職員は年2回の地域の防災訓練に参加している。 ・事業所が毎年行う「なごみ祭り」への参加を、民生委員や町内会長に案内し、多数の参加を得ている。。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	地域での参加を通じてグループホームの存在を知っていただくよう努めている。見学も快く受け入れている。		
4	3	○運営推進会議を活かした取組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	ご家族、町内会、市からいただいた提案・助言を運営に活かしてる。	・運営推進会議を年6回開き、家族、町内会、長寿会、地域包括支援センターから出席がある。 ・会議では、事故やヒヤリハットなどの事例を報告している。 ・幼稚園児や保育園児との交流の提案があり検討している。	
5	4	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる	集団指導講習会や実地指導での指摘を中心に相談するようにしている。	・市の感染症の研修や地域包括支援センター主催の防災クッキングに参加している。 ・生活保護対象の利用者に対する予防接種につき、市の生活保護課から連絡を得ている。	

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
6	5	○身体拘束をしないケアの実践 代表者及び全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	拘束委員会、認知症研修を通じて具体例をあげ、「身体拘束をしないケア」の理解を深めている。	<ul style="list-style-type: none"> <li>・「拘束委員会」を3か月毎に開催し、気付かずに行った行動が拘束に該当するか等を議論している。</li> <li>・市の「身体拘束」の研修に、職員が参加し、会議でその内容を報告している。</li> <li>・職員は身体拘束についてのテストを、年1回受けている。</li> </ul>	
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止法等について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	職員会議で認知症研修の時間を設けて、日常の具体例を取り上げ注意している。		
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	職員会議などで学ぶ機会を設けるようにしている。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	内容を前もって連絡し、文書で分かりやすく説明し納得いただいている。		
10	6	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員並びに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	運営推進会議や面会時、または必要事項連絡時にお伺いしてる。	<ul style="list-style-type: none"> <li>・家族の意見や要望は、運営推進会議や面会時に聞いている。</li> <li>・家族の要望で、小遣い帳の明細報告を月1回行うようになった。</li> <li>・花見や菖蒲園の散策には、家族に参加を求め、話す機会を増やすよう努めている。</li> </ul>	

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
11	7	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	毎日の申し送り時や、職員会議の時に話し合いをしている。	<ul style="list-style-type: none"> <li>職員は、毎年提出の「自己申告書」に意見や提案を書いている。</li> <li>ベッドの2点柵が身体拘束に当たるとの職員の意見で、柵を1点に変更した事例がある。</li> <li>食材搬入の安全に配慮し、台車とコンテナを購入した。</li> </ul>	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	法人での施設長会議や、自己申告書を通して反映できるようにしている		
13		○職員を育てる取組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	上位資格取得や、各種研修会参加を勧めている。そのための学習環境を整えている		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会をつくり、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取組みをしている	おもに横須賀市グループホーム協議会を通じて外部交流し情報交換している		
II 安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	サービスを開始する前に、必ず事前面談し情報収集する。さらに入所時は、それらを踏まえ要望を聞きだすようにしている		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	契約を進めている段階から、率直に困っていることをお聞きしている		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスの利用を開始する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	まずは生活に慣れていただくことが一番で、除除にご要望を見極めて行くようにしてる。		
18		○本人と共に過ごし支え合う関係 職員は、本人を介護される一方の立場に置かず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	安全を確保の上で、残存能力の維持が重要と捉え、気軽に話し合える関係を作っている		
19		○本人と共に支え合う家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場に置かず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	ご本人第一で、家族の要望をいっしょに考えながら支えていく		
20	8	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	電話を取次ぐ、気軽に面会するなど機会を提供している	<ul style="list-style-type: none"> <li>・家族や友人から利用者への電話を取り次いでいる。また利用者から家族への連絡に、事業所の電話を利用できるようにしている。</li> <li>・家族と食事やお墓参りに出たり、正月に外泊したりする利用者がいる。</li> </ul>	

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	日中は居間で過ごすことが多いので、利用者同士の関わり具合を考慮し席順を変えたり配慮している。		
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用（契約）が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	時々、新たな利用者をご紹介してくれるなどつながりを持っています。		
Ⅲ その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	9	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している。	「どうしたいですか？」とご本人の意向の把握に努め、できれば都度アセスメントしている。	・利用者の表情や仕草から、興味を持っていることややりたいことを汲み取っている。 ・塗り絵、あみもの、新聞などを近くに置くなどして、何に興味があるのかを把握するようにしている。押し付けることはしない。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	入所時のアセスメントでは足りない情報を会話の中で拾っている。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	何かふだんと変わってないか、その場その場で情報交換をしてる。		

自己評価	外部評価	項 目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
26	10	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	本人に変化があった時は、まずアセスメントを行い関係者で統一したケアを行うようにしてる。	<ul style="list-style-type: none"> <li>入所時の暫定計画は、アセスメントシートを元に家族の意見を聞いて作成している。</li> <li>介護計画の見直しは、6か月または1年後にサービス担当者会議を開き、職員と家族の意見を聞いて、更新している。</li> </ul>	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	記録を遡って読み、回診の状況報告やケアの方針に活かしてる。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々にも生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	各職種や提携機関からの助言や情報を参考にしている。		
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	グループホームの存在を覚えてもらうためにも、なるべく外へ向けて情報発信してる。		
30	11	○かかりつけ医の受診診断 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	ふだんから提携病院の往診医に相談したり、指示を仰いでいる。近隣のクリニックとも良好な関係を築いている。	<ul style="list-style-type: none"> <li>協力医は月2回、歯科医が週1回の往診し、看護師は毎週来訪し、利用者の健康を確認している。</li> <li>通院には、事前に利用者の様子を病院に通知しておき、家族が付き添って、受診後、受診報告書を事業所に提出している。</li> </ul>	



自己評価	外部評価	項 目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
31		○看護職員との協働 介護職員は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職員や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	週1回の訪問のみならず、受診の応援や相談に乗ってもらっている。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、また、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。又は、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	面会に行った際には、ナースステーションに顔を出すようにして現在の状態について情報を集めている。		
33	12	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	往診医から話があった場合は、次の回診時に家族同席の機会を設けるようにしている。	・事業所方針「重度化した場合における対応指針」にて明文化し、入所時に家族に説明している。 ・その時期には、医師から家族に説明し「看取り介護についての同意書」にサインをもらっている。	
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	具体例を示し、慌てず対応できるよう職員会議などで話し合っている。		
35	13	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	運営推進会議で毎回話題にしている。職員にも議事録を示し検討している。	・避難訓練は、夜間想定を含めて年2回実施している。訓練には近隣住民の協力があり、避難した利用者の見守りをしてくれる。 ・災害備蓄品は食料品とカセットコンロや防災頭巾などの緊急対応備品を備え、リスト化している。	

自己評価	外部評価	項 目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
IV その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	14	○一人ひとりの人格の尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	職員会議では、毎回「虐待研修」として声かけなどを取り上げている。	・利用者の写真などの扱いには、入所時に家族から「個人情報使用同意書」にサインを得ている。 ・職員が利用者につき話すときは部屋番号で呼び、個人名を出さない配慮をしている。声掛けに注意し、無理強いしないケアに努めている。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	日々の生活を通じて話しやすい関係づくりをしてる。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	なるべく急がせずゆっくりと生活していただく。始める前は、本人の意向を伺うようにしている。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	ふだんの着替えや外出の際、「どちらにしますか？」と声かけするようにしてる。		
40	15	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	皮むきや台拭きなど出来ることを手伝っていただきながら、食事を楽しみにしてる。	・食事は利用者の希望を入れて、職員が手作りし、献立を業務日誌に記入している。当日の食事担当は業務日誌を確認して、重複しないよう努めている。利用者が好むコロケパンやちゃんぽんを出すこともあり、誕生日には刺身や寿司で祝っている。	

自己評価	外部評価	項 目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	声かけするタイミング（ひと、場所、時間）を替え、摂取する機会を増やしている。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないように、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	毎週来る歯科往診医に相談して、清潔な口腔ケアを行っている。		
43	16	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立に向けた支援を行っている	食事の前後は必ずトイレに行くよう声かけしてる。おむつの使用は最低限にして、トイレでの排泄を促している。	・自立者は3名、夜間おむつの利用者は2名いる。 ・職員は排泄チェック表で利用者の排泄パターンを把握し、時間や利用者の様子を見てトイレに誘導している。夜間はセンサーで利用者の状況を確認している。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	十分な水分と乳製品、繊維食物の摂取を心がけている。安全確保のうえ、なるべく歩くようにしている。		
45	17	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々に応じた入浴の支援をしている	体調を考慮しながら、余裕を持って個別対応してる。	・入浴は午前中とし、週2回以上入っている。入浴状況はケア確認表の入浴欄に記入し業務日誌に転記している。 ・利用者は、職員と会話をしたり、歌を歌ったりしながらくつろいで入浴を楽しんでいる。	

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	体調やご希望に沿って、適宜臥床対応してる。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	申し送りでの確認や、責任をもった服薬介助を行っている。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	季節のイベント、お祝いのささやかな昼食会（特別食）など気分転換を図っている。		
49	18	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。また、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	季節ごとの外出レクや、家族との外食などで気分転換を図っている。車イスでの近隣への外出も行っている。	<ul style="list-style-type: none"> <li>・天気の良い日に、歩ける人は事業所周辺を約30分かけて散歩し、その他の利用者は中庭で外気浴をしている。</li> <li>・外出レクで交通公園の桜を見に行き、しょうぶ園では菖蒲を鑑賞している。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・日常的な外出の機会が少ないようです。家族やボランティアの協力を得て、外気に触れる機会を、増やすことが望まれます。</li> </ul>
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	お小遣いをお預かりし、その中からご希望の品物を買ってきています。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	ご希望があれば早く対応している。 時々のご家族への連絡でも報告・相談している。		
52	19	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間（玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等）が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激（音、光、色、広さ、温度など）がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	毎日の清掃は必ず行い、感染症予防のため換気・消毒を実施し清潔に努めている。館内の明るさと分かりやすさを確保してる。	・外出レクの写真や、利用者による塗り絵や生花を飾って生活感や、季節感を味わっている。 ・リビングの温湿度は、26℃、50%を目安として管理し、利用者の体感を考慮しながら調整している。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	体調により居室、居間を使い分けている。様子の把握に努めている。		
54	20	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	安全に配慮してご本人の意向を確かめながら置いたり、貼ったりしている	・各居室は加湿器にて、乾燥を防いでいる。部屋で昼寝をするときは前もって室内を保温している。 ・部屋の清掃は、毎朝日勤者が担当している。利用者の衣類の入れ替えや、部屋の整理・整頓は職員が行っている。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」や「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	たとえばトイレの位置やお部屋の場所など大きく分かりやすく表示している		

# 目 標 達 成 計 画

事業所名 グループホームなごみ

作成日 令和1年12月16日

## 【目標達成計画】

優先順位	項目番号	現状における問題点、課題	目 標	目標達成に向けた具体的な取り組み内容	目標達成に要する期間
1	49	日常的な外出の機会が少ない	(季節イベントを除き) 希望者には、1回/月以上、30分程度外へお連れする	1. ご家族の応援を仰ぐ(面会時等外へ連れ出してもらう) 2. 予定表を作成し、職員が持ち回りで担当する 3. 一部をのぞき車椅子対応とする 4. ボランティアを当たってみる	令和2年1月より実施予定 (穏やかな日を選んで行く)
2	2	近隣の保育園や幼稚園と交流がない	まずスタートさせて、できればその後定例化していく	1. 町内会や地域包括支援センターから紹介してもらう 2. 職員、ご家族のツテで紹介してもらう	来春までに一度実施したい
3	48	日々のレクリエーションがマンネリ化している	個人の希望を尊重しつつリハビリ体操など幅を拡げていく	1. 毎日10分間程度の軽体操を行う 2. 塗り絵だけでなく手指を使うレクの導入 3. 職員も自分でできるレクを持つ	令和2年1月より実施予定 (全体会議で発表・検討する)
4					
5					